

ROTARY CLUB OF

# KANAZAWA-NORTH



## 金沢北ロータリークラブ

例会日：木曜日 12:30～13:30

例会場：卯辰山・ホワイトハウス

事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所

TEL <0762> 22-2525

会長：小杉善二 幹事：塩村喜代次

情報委員長：米沢修一

1979・8月23日 第147号

## “一に親睦 二に親睦”

京都洛北RC 源田 誠一 君

カップ、ダッコちゃん、デコイチ、ロマンスの政……我が洛北クラブメンバーのニックネームである。

現在60名全会員が夫々あだ名をもち、お互い寄り合う時いつもこれで通している。

洛北クラブがまとまっていると評されるのは、クラブ運営の柱を親睦第一にしていることにあるだろう。新入会員は最初必ず親睦委員会へ入り、クラブのコミュニケーションを計る為活躍してもらう。

当クラブにはゴルフ、マージャンは勿論、謡曲、陶芸、ダンス更にはテニス、腹腹(食べ歩き)の各同好会があり親睦の輪を拡げている。中には全部の会へ入っている会員も居る位である。今年は新しく写真、囲碁、コーラス、詩吟の会が出来そうだ。

洛北クラブは又炉辺会合もさかんである。10班を名簿別、職分別、年代順という様に6つのステップ年6回、同一の弁当を用意し同和を計っている。

この様にして横の連携を重視していることが当クラブの出席率の向上やニコボックスの増大へととなり、強いてはクラブ奉仕や、社会奉仕活動の原動力になっていると確信している次第です。金沢北クラブ共々ロータリーの為に研鑽したいと思ひます。

— 金沢北RC例会講話から — (文責 米沢修一)



文化財拝見

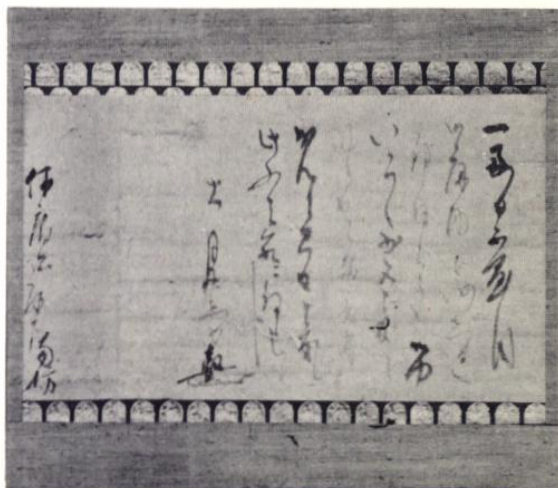
### ③ 高山右近自筆書状一幅

木島光仁氏蔵

キリスト教禁制の発令とともに改宗を命じられ明石より加賀前田家の客分となっていた右近(号・南坊)は若年より茶道を利休に学び七哲の一に数えられた。

この自筆書状は、金沢の片岡孫兵衛(休庵)に対し茶の湯に用いる鶴の羽ぼうきが出来たからお茶に招待したいと記したものである。

この後、慶長19年国外追放令により金沢を去り、ルソン島に流される。



## 私の職業奉仕

下村 義明

私の職業は、加賀友禪を主とした紺屋です。紺屋と言うのは古い言葉で、現在では染色業と呼ばれています。紺屋は昔からの職人で、日本の衣生活とは切っても切れないものです。

ここで、日本の衣生活の歴史を繙いてみますと、そこには日本人の美を愛する心が常に見られます。これは、衣食住全てにおいて言えることですが、衣が最初にある所に、人間の美の一番最初に繋がるものと思えます。日本人は自分をより一層美しく見せるためにいろいろ工夫してきました。例えば、十二単には宮廷女性の誇りとも思えるような優雅な美がありました。

時代が変われば、社会も生活も変わります。その中で、明治維新は、日本の衣生活に大きな影響を与え、西洋の洋服の普及を伴いました。スピード時代とされる今日では、活動的な洋服は、欠くことのできないものとなっています。確かに、その中には美しさもあります。しかし、長年多くの日本人の手によって育まれた和服の美の伝統を、もう一度見直して戴きたいと思えます。



ところで現在、加賀友禪は大変なブームです。生産が追い付かない状態で、中には型染めによる偽造されたものまで出て来るようになりました。それはそれで、現在社会の中でやむを得ないことかもしれません。

しかし、大量生産化されたものの美は決して本物とは言えません。多くの職人の手を通して幾日もかけて、最大限の心配りを持って始めて、手書き加賀友禪の味がでるのです。

また、見方を変えますと、このブームは和服を見直し、その美を理解する人が多くなっ

たことを示すと思えます。これは私にとって大変心強いことです。

さて、「紺屋の明後日」と言うことわざを思い出して下さい。これは、「約束の期限があてにならない」と言う意味です。紺屋の仕事は天候に支配され、どうしても期限が伸びてしまうのです。

つまり、紺屋にとっては、天候・自然は欠くことのできない条件です。

特に、友禪染は、自然の中で生まれます。そしてその中でも、水は命です。最近では金沢主流の川でよく見られた友禪流しの風景も、めっきり少なくなり、公害のために人工的な川を使うしまつです。染色団地には近代化された設備が整っていますが、私は友禪染の本当の美しさは、やはり自然の中で育まれるものだと思います。ですから、自然を守ることに勤めたいのです。

私は、単に一染色業の経営者にすぎませんが、このロータリークラブに入会させていただき皆様の御協力、御指導をうけたまわり、加賀友禪の伝統の美を、石川県の産業の一つとして広く伝え、この金沢の美しい自然を守っていきたいと思えます。職業がら私にできるのはこの2つのことです。これからロータリークラブの一員として、ロータリー精神を常に持ち、毎日の生活の中で、少しでも社会に役立つように、努力して行きたいと思えます。

## 夏の家族旅行会

—手取ダムと緑の白山麓へ—

8月11日(土)久々の夏晴れの下、22名の参加で、新車のデラックス新型バスで、事務局の見送りをうけて、一路手取溪谷を遡登し、手取川下流発電管理所では、完全オートメーション化された最新式ダム管理の説明案内を受け、更に轟音すさまじい発電所の水車タービン部まで、詳細な見学をさせて頂いた。中宮温泉山田旅館で一浴休憩の後、約20分の山道を喘いで、野猿広場へ直行、餌付け中の、カムリA群野生猿の生態を、つぶさに観察、その野生美を賞嘆し名残りを惜しみつつ、一里野高原ホテルに到着。夕暮れ時を「宝探し」に汗を流した。

炭火焼、岩魚の骨酒に舌鼓を打ち、大キャンプファイヤーを囲んで「奉仕の理想」の合唱、花火大会など、日頃の多忙を忘れて打ち興じた。

翌日は、白峰に新設の白山麓民俗資料館(杉原家・尾田家……)を見学。名産の栃の実餅、堅豆腐、白山わさびなどを土産に正午無事帰沢した。(親睦委員長 飯野 記)



## 7月例会出席状況

出席率 99.06%

会員名	月日	7/5	7/12	7/19	7/26	7月	会員名	月日	7/5	7/12	7/19	7/26	7月
浅野	豊久	○	○	M	M	◎	大村	精二	○	○	M	○	◎
出島	弘明	M	M	○	○	◎	岡田	三郎	M	○	○	M	◎
二木	敬識	○	○	○	M	◎	桜井	林太郎	○	○	○	○	◎
橋場	正樹	○	M	○	○	◎	沢田	健太郎	○	M	M	○	◎
東元	幸一	欠	○	欠	M	×	柴田	哲夫	○	○	○	○	◎
平尾	信潔	M	○	M	○	◎	清水	三郎	○	○	○	○	◎
本江	他美	M	M	○	○	◎	下村	村義	○	○	○	○	◎
市川	則人	○	M	○	○	◎	塩村	喜代次	○	○	○	○	◎
飯野	健志	○	M	○	○	◎	庄田	厚郎	M	M	M	M	◎
石川	栄治	○	○	M	○	◎	高田	全郎	○	○	○	○	◎
石丸	幹次	○	○	○	○	◎	高他	依吉	○	○	○	○	◎
上笠	恒次	○	○	○	M	◎	俵土	原一	M	○	○	○	◎
木島	光仁	○	M	○	M	◎	佃原	一成	○	○	○	○	◎
木下	和吉	○	○	○	○	◎	釣見	栄一	○	○	○	M	◎
小林	隆二	○	○	○	○	◎	上田	住信	○	○	M	○	◎
小野	民男	○	○	○	○	◎	魚住	安彦	○	M	○	○	◎
小杉	守男	○	○	M	M	◎	若山	三啓	○	○	○	○	◎
小増	杉善	○	○	○	○	◎	山岸	与介	○	M	M	○	◎
水野	博	○	○	○	○	◎	米沢	繁男	○	M	M	○	◎
本岡	三郎	○	M	M	M	◎	米沢	修一	M	M	M	○	◎
宗田	市太郎	M	○	○	M	◎	吉田	昭賢	○	○	M	M	◎
中村	三三	M	M	○	○	◎	由山	吉海	○	M	M	○	◎
中大	省勝	○	○	○	○	◎							◎

